
穿刺時のスタッフの腰痛負荷軽減の試み～キャスター付きチェアの有用性

医療法人衆和会 長崎腎病院

○辻 誠 上谷しのぶ 白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【背景】

2019年の当院の調査で、透析室看護師の8割以上が腰痛を経験しており、この要因には穿刺や抜針時の前傾姿勢によるが推測された。そこでノーリフトチームを主体とし、腰痛対策の取り組みを開始した。

【目的】

キャスター付きチェア(以後チェア)の有用性について検討する。

【方法】

チェアを導入前後にてVASスケールを含んだ質問調査票にて効果の検証を行った。統計にはBellcurve for Excelを用い、統計手法にはWilcoxon signed-rank testにて行った。

【結果】

チェアの使用により穿刺時の腰の負担が軽い・とても軽いとの回答が55.6%。チェア導入前の穿刺時の腰痛(VAS)4.05が導入後3.34($p=0.0012$)と有意な減少がみられた。

【考察】

チェア使用により前かがみ姿勢の頻度を減少させることは、腰痛の予防軽減に有効である事が示唆された。労働環境改善としても病院全体で腰痛対策の取り組みが必要である。